

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	70.77	99.60	2,225	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
11,252	33.41	336.79
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
11,180	32.84	340.44

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
○ 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

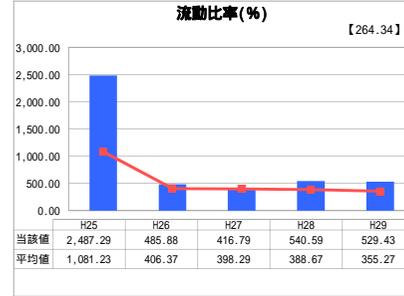
1. 経営の健全性・効率性



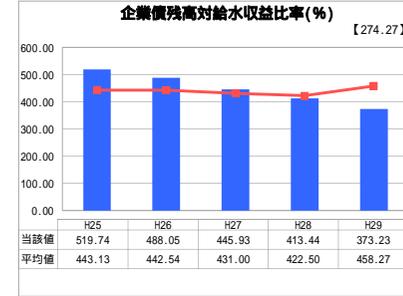
「経常損益」



「累積欠損」



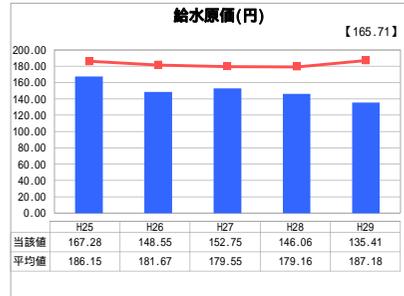
「支払能力」



「債務残高」



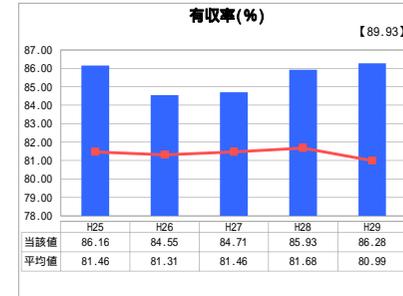
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

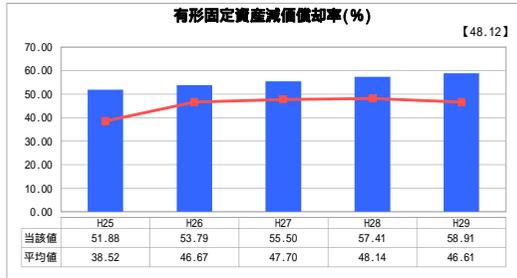


「施設の効率性」

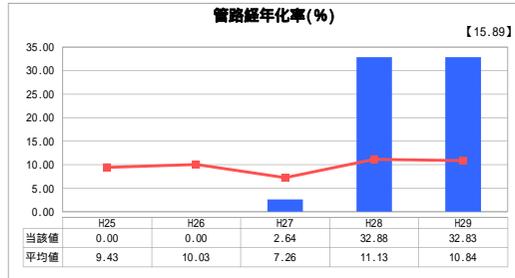


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
平成26年度から類似団体を上回っている。これは給水収益の他に一般会計からの繰入金で収入を賄っているためである。平成29年度は経常費用が減少したため過去5年で1番高くなっている。

累積欠損金比率
平成26年度から累積欠損金は発生していない。

流動比率
平成26年度から会計制度の見直しにより指標が低下しているが、類似団体を上回り指標も100%を超えているため負債を賄える状態にある。

企業債残高対給水収益比率
企業債残高が減少し新たな借入も行っていないため、給水収益に対する企業債残高の割合も減少している。

料金回収率
類似団体を下回り、100%以下の水準で推移している。給水に係る費用が給水収益で賄いきれず、一般会計繰入金によって不足分を補填しているからである。今後、適切な料金収入の確保に努めていく。

給水原価
減価償却費などの経常費用の減少に伴い減少傾向にあり、類似団体を下回っているが、投資の効率化や維持管理費の削減に努めていく。

施設利用率
類似団体を上回る水準であるため、施設利用状況は適切であり、適正な規模を保っている。

有収率
漏水修繕等を行っており、類似団体を上回る水準である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
施設や管路等の老朽化が進み耐用年数が近づいているものが増加しているため、年々数値が増加し、類似団体を上回っている。施設更新等を検討していく。

管路経年率
「当該値」欄のH25、H26、H27の数値に誤りがありましたので訂正いたします。

	正	誤
H25	5.59	0.00
H26	7.74	0.00
H27	30.28	2.64

平成27年度から類似団体を上回っており、法定年数を過ぎた管路が今後も増加が見込まれる。

管路更新率
管路更新率は、類似団体より下回って推移している。老朽化が進むため計画的に管路更新を行う必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体の平均値と比較しても著しい悪化は見られない。しかし、収入面をみると給水収益だけでは財源の確保が難しく、一般会計からの繰入金に依存している状態である。支出については減価償却済の資産が増え、ピーク時よりも経常費用が減少している傾向がみられる。収支のバランスを考えた上で、給水収益のみで水道事業の経営を行えるように段階的な料金改定を検討する必要がある。

老朽化の状況については、類似団体の平均値より低い水準であったが、管路経年率は平成27年度から上回っている。管路更新については、類似団体の平均値よりも大きく下回っているため、今後、施設や管路の老朽化に備え、長期的な計画を立て更新を進めていく必要がある。